

# 平成27年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果及び分析

江戸川区立一之江小学校

対象学年 第5学年 実施児童 93名

実施日 平成27年7月2日

対象教科 国語 社会 算数 理科

教科	A 教科の内容											
	関心・意欲・態度		思考・判断・表現 (国:話す・聞く)		技能 (国:書く)		知識・理解 (国:言語)		読む		計	
	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都
国語	86.7%	88.8%	67.9%	74.2%	51.8%	60.8%	56.5%	61.3%	56.4%	63.2%	61.3%	67.1%
社会	91.6%	89.1%	59.2%	59.9%	66.3%	67.7%	43.9%	44.3%			59.7%	60.1%
算数	77.4%	80.2%	60.9%	59.9%	59.2%	68.5%	65.1%	69.5%			63.9%	67.9%
理科	92.7%	92.0%	53.0%	58.9%	67.0%	72.0%	67.4%	73.2%			65.5%	70.4%

教科	B 読み解く力に関する内容							
	取り出す力		読み取る力		解決する力		計	
	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都	学年	東京都
国語	43.6%	54.9%	3.2%	6.0%	21.3%	37.8%	22.7%	32.9%
社会	53.2%	57.2%	42.1%	52.4%	31.1%	32.6%	42.1%	47.4%
算数	69.5%	73.9%	16.3%	24.2%	30.0%	37.9%	38.6%	45.3%
理科	57.8%	59.9%	47.9%	55.5%	56.2%	55.8%	54.0%	57.1%

教科	教科等の合計	
	AとBの合計	
	学年	東京都
国語	56.0%	62.5%
社会	55.1%	56.8%
算数	59.2%	63.7%
理科	62.8%	67.3%

## 平成27年度 第5学年 都学力調査結果の分析

### <国語科>

#### 【学年の平均正答率】

A 教科の内容・・・都平均より－6%

B 読み解く力に関する内容・・・都平均より－8%  合計…都平均より－6%

※A・Bの観点別調査結果で平均を大きく下回ったのは、「B 読み解く力に関する内容」の『解決する力』で－14%だった。(その他は3～10%) また、「A 教科の内容」の『知識・理解』は＋1%で、若干ではあるが都平均を唯一上回っていた。

#### 【正答率が低かった問題について】

×特に正答率が低い問題 (約20～40%)・・・4問

△正答率が低い問題 (約50%)・・・3問

#### ① 4－(2) 正答率21.5%

「短期記憶」と「長期記憶」について、二つの資料から記憶の種類を分類する問題。 説明文とカードを照らし合わせ、似ているところや違うところを見つける能力が必要。カードが三つあり、短期記憶のカードを二つ選ばなければいけないところを、一つしか選んでいない児童が多い。問題の読解はできていても、解答のしかたを間違えている児童が多かったと考えられる。

#### ② 4－(3) 正答率26.9%

「記憶」についての説明文を要約したものが四つあり、説明文の内容にふさわしい文章を選ぶ問題。似ているところや違うところを見つける能力はもちろんのこと、思ったことや考えたことを書きくわえてある部分を読み取る力が必要となる。この書き足し部分を“説明文の中に含まれていない内容”ととらえて、ふさわしくない文章とみなしてしまった児童がいると考えられる。

#### ③ 3－(2) 正答率31.2%

「ねらいをサだめて、力いっぱいボールを投げる。」の『定めて』を漢字で書く問題。既習の漢字を、文章に合わせて正しく書ける能力を必要とする。間違えた児童の多くは空欄だったり、“的”と書いた児童も数名いた。音読みも訓読みも単語で練習するだけでなく、文章の中で練習・習得していくことが大切だと考える。

#### ④ 5－(2) 正答率37.6%

物語文の読解問題。「たいち」という少年が、木のぼり職人のおじいちゃんと一緒に野いちごつみに行く場面。おじいちゃんに話しかける「たいち」の言葉から、この時の「たいち」の気持ちとしてふ

さわしいものを選ぶ問題。会話文や行動を表す文から、登場人物の気持ちの変化や行動の理由を考える能力が必要だと考える。

⑤ 1-(3) 正答率50.5%

音声CDを聞いてメモを取り、その後の設問に答える問題。図書委員会が夏休みに本を読んでもらうために、児童集会でよびかけをする予定。その際に伝えることの話し合いをしている場面である。ここでは、話し合いをするときは、だれが、何についての話しをしているのかを注意して聞く力が必要となる。

⑥ 6-(3) 正答率51.6%

自分で書いた物語をお互いに読み合う会を開くことになり、かずこさんが『物語の組み立てシート』を使って、物語を考えている設定。かずこさんが「物語の下書きの一部」を書きなおした理由としてふさわしいものを選ぶ問題である。書いた文章を読み直し、正しく書き直すことだけでなく、よりよい文章になるにはどうすべきかを考えて書き直すという能力が必要となる。普段の作文や意見文などの文章を遂行する際に、誤字脱字だけでなく、よりわかりやすい構成や表現方法で文章をつくらうとする意識が育つとよいと考える。

⑦ 1-(4) 正答率53.8%

音声CDを聞いてメモを取り、その後の設問に答える問題。図書委員会で話し合いをした後、児童集会でどの資料を使ってよびかけをすることにしたかを選ぶ問題。(資料1～4の中から二つ選ぶ。)ここでは、話し合いをするときは、意見や考えだけでなく、理由も意識して話したり聞いたりする力が必要だと考えられる。

## 〈社会科〉

・4 観点より (興味・関心 思考・判断・表現

資料活用の技能 知識・理解)

知識・理解の正答率については、東京都76.6% 学年77.5%と平均を約1ポイント上回った。学習してきた内容について、記憶しているように感じる。

都道府県の位置について、

千葉県…93.5% 新潟県…88.2% 鹿児島県…86.0% 高知県…73.1%と高い正答率だったが、自分たちにとって身近な地域については場所を理解しているが、かかわりが浅い地域については正答率が下がってきている。

資料活用に技能について 東京都…75.5% 学年…72.6%

学校のまわりの様子を方位を使い説明する問題において、55.9%と正答率が低かった。

地図の中では、方位をどのようにあらわすのか理解していない児童がいるのではないかと考えられる。中学年のうちより地図に触れる活動や、方位を使い説明をする活動を頻繁に入れることなどが大切であると考えられる。

社会的事象に関する思考・判断・表現について 東京都 68.9% 学年 60.9%

3 観点のなかで、一番大きな開きがある。

消防署の119番通報のしくみについて問われている問題では、119番通報を受けて関係機関がどのような連携をとっているのかを理解するだけでなく、なぜこのような連携をとっているのか。その理由を資料を根拠として考えることが難しかったようである。同様に、火災発生時期のグラフから、どのような対策が立てられるのかの問題でも、グラフの数字が読めても、そこからどんな注意点があるのかまで、読み取れていない現状があった。

#### 読み解く力に関する内容

全体的に東京都 53.7% 学年 45.5% と東京都を下回る結果となった。

中身を詳しく見ていくと、複数ある資料を読み取りどのような変化が起きたのかを考える問題などで正答率が低い結果となった。

複数ある資料から必要な情報を読み取り、関連させながら考えることが難しい状態であった。

#### 解決する力に関する内容

東京都 51.0% 学年 43.0%

すべての資料を読み取ったものを総合して考える活動が難しいと考える。

例えば、地域の様子を考える問題では、おすすめの観光マップをまとめ問題があった。観光地として観光の様子を説明したり、児童が作成した紹介文と写真資料との組み合わせが正しいかなどを総合して、街づくりの特色を考えるなど、資料から何を考えどんなことが分かったかなど、自分の考えをまとめる活動が苦手だと考えた。

#### 改善点

##### 問題解決学習の充実

単元の導入段階において、単元を貫く学習問題を確実に設定すること。

学習過程において、常にどんな問題を解決しようと児童が理解していることが大切だと考える。また、問題に対して解決を図るために資料を調べ分かったことを自分の言葉でまとめ考えることなど、言語活動の充実を図ることが大切だと考える。

## 資料の活用方法

社会科では、多くの資料を用いて授業を構成する。

児童に資料を提示し調べさせる際に、「わかったこと、気が付いたことを書こう。」と指示する場面が多いが、教師側からどこに注目させるのか、何について調べるのかなど、調べるポイントをあらかじめ提示することが大切である。

グラフなどを用いる場合でも、ただ数字の変化を読み取るだけでなく、「なぜそうなったのか。」その理由を資料を根拠として考える活動が大切である。

## 〈算数科〉

### 数量や図形についての技能

設問1 (3)  $9 - 0.8$

都平均と比べて13.5%低い

理由 筆算での位取りが身につけていない児童が多い。 $9.0 - 0.8$ として考える必要がある。

設問1 (5)  $100 - 20 \times 4$

都平均と比べて9.2%低い

理由 四則計算のきまりを覚えていない児童が多い。四則の中で優先される計算の仕方を確実におさえる必要がある。

設問2 (2) 80cmの0.4倍を求める問題

都平均と比べて12.5%低い

理由  $80 - 0.6$ と解答した児童は0.4を長さとしてとらえている。 $80 \div 0.4$ と解答した児童は、図から青テープの方が短いと認識し、わり算で計算すればよいと考えたと考えられる。

設問3 いくつかの分数から  $\frac{1}{2}$  より大きいものを選ぶ

都平均と比べて10.4%低い

理由 分母÷分子の計算をして、数の大きさを確認していないと考えられる。分母が大きいほど、大きな数と認識している児童がいるものと考えられる。

設問4 (2)  $8\text{ m}^2$ に16人いる部屋の $1\text{ m}^2$ 当たりの人数を求める

都平均と比べて11.1%低い

理由 「上記以外の解答」が約20%いる。(1)の問題ですでに約20%が誤答しているため、ここでは50%の正解率まで下がったのではないかと考えられる。また1人あたりの面積を求めてしまった児童が15%いた。

設問8  $100 - 20 \times 4$ で求められる問題を選ぶ

都平均と比べて10.3%低い

理由 計算のきまり(順序)を理解できていない。計算の意味ではなく、問題の言葉通りに式を置き換えて考えている。

学力調査 算数B考察

設問1 (2) 問題文をもとに、 $37 \times 24$ の積が888になることを書く

都平均と比べて16.5%低い

理由 無回答が14.3%と非常に多い。全国平均の6%、都平均の7%と比べてもかなり多いことから、式で表現すること、言葉で説明することを苦手としている傾向が見られる。

設問2 (2) 棒グラフの読み取り

都平均と比べて6.6%低い

理由 棒グラフは読み取れているものの、理由については無回答。そのことから、言葉での表現を苦手としていることがわかる。また、棒グラフの描き方が十分定着していると言えず、棒グラフのマスを正確に活用できていない。

設問3 (1) 昨年の昼食時間を見直したときに、今年は準備の時間を何分間にするか

都平均と比べて14.1%低い

理由  $0:10 \sim 0:45$ を45分間と勘違いし、 $45 - 5 - 3 = 37$ と誤答している児童が多い。以上のことから、問題文の読み取りが不十分である児童が多いことがわかる。

設問4 (2) 二人のリズムが重なる12小節目の12はどのような数であるかを書く

都平均と比べて14%低い

理由 無回答が24.5%と全国平均・都平均と比べて倍の数字である。問題の意図が理解できていなかったことや、言葉で説明することを苦手としている児童が多いことが考えられる。

設問5 (2) 使いやすい箸の長さの目安を基に、一あた半の長さを表している図を選ぶ

都平均と比べて11.2%低い

理由 「一あた半」を「一あた」、「0.5あた」のように正確にとらえられていない児童が多い。「倍」の認識が不十分で「一あた」と0.5cm、「一あた」と1.5cmを「一あた半」ととらえている間違えが多い。

## 〈理科〉

### 【分析】

- ・ 自然事象への関心・意欲を問う問題における正答率は9割を超えており、理科への関心や意欲が高いことが分かる。
- ・ 科学的な思考力・表現力に関する問題への正答率が3割程度と低く、課題が見られた。
- ・ 自然事象についての知識・理解ができているが、昆虫の体のつくりや月の動きなどの実験・観察の難しい事象に関する知識・理解に課題が見られた。
- ・ 昆虫のイラストから体のつくりについて考える問題など、学習した知識をもとに考察する問題では正答率が低く、課題が見られた。
- ・ 実験や観察の結果をまとめたものから、必要な情報を読み取る力は高い。しかし、それらを比較したり関連付けたりして読み取る力を測る問題では正答率が低く、課題が見られた。
- ・ 実験・観察の意図や背景、得られた結果について科学的に理解・解釈して推論し、疑問を解決する力を問う問題における正答率が低く、課題が見られた。
- ・ 学習した内容をもとにして、身近な事象について科学的に推察する力に課題がある。学習した事柄が日常生活においてどんなことに使われているか、

### 【今後の学力向上に向けた取り組みについて】

#### ○導入における事象提示の工夫

児童自ら疑問を見つけ、主体的に考えて観察・実験を通して疑問を解決していくために、導入の方法を工夫する。その際に、日常生活に即した事象を用いるなど、児童の興味・関心を高めるようにする。

#### ○生活に即した事象を用いること

児童の関心・意欲を高めるために、児童にとって身近な事象を用いる。また、日常生活に即した事象を用いて疑問を解決する過程を通して、それらを積極的に解決しようとする態度や身近な事象について科学的に思考・表現する力を高める。

#### ○学習内容をもとにして身近な事象について考える活動を多く取り入れる。

学習した内容を用いて、身近な疑問を解決する活動を通して、自ら課題を見つけ、科学的に考察し解決しようとする態度を養い、身近な事象について科学的に思考する力を高める。

○問題解決学習の流れに沿って学習する。

児童自ら疑問を見つけ、実験・観察の方法を工夫して疑問を解決する過程を通して、主体的に問題を解決しようとする心情や態度を養うとともに、疑問について科学的に考察して、解決する力を高める。